

# 十九の春

沖縄民謡

□□□

(女)

私があなたにほれたのは  
ちようど十の春でたは  
いまさら離縁と云うなら  
ば

(男)

もとの十の九にすたらば  
庭の枯木を咲いてなら  
枯木に花の咲いたなら  
九にすたらば

(女)

みすて心があるなら  
早くお知りあせうさね  
年も若くあるうちに  
思い残すな明日の花

(男)

一銭二銭の葉書さえ  
千里万里の旅をする  
同じ那覇市に住みなが  
逢えぬ我が身のせつな  
よ

(女)

主(ぬし)さん主さんと呼んだとて  
主さんにはや立派な方がある  
いくら主さんといふ想  
一生添えない片想

(男女)

奥山の住まいのウグイスは  
梅の小枝でい昼寝しては  
春が来るよ木うきな夢を  
木ケキヨ木ケキヨと鳴いた

# 十九の春

沖縄民謡

（女）

私があなたにほれたのは  
ちようど十九の春でした  
いまさら離縁と云うならば  
もとの十九にしておくれ

（男）

もとの十九にするならば  
庭の枯木を見てごらん  
枯木に花が咲いたなら  
十九にするのもやすけれど

## 十九の春

沖縄民謡

□■  
(女)

みすて心があるならば  
早くお知らせ下さいね  
年も若くあるうちに  
思い残すな明日の花

(男)

一銭二銭の葉書さえ  
千里万里と旅をする  
同じ那覇市に住みながら  
逢えぬ我が身のせつなさをよ

## 十九の春

沖縄民謡

（女）

主（ぬし）さん主さんと

呼んだとて

主さんにや立派な方がある  
いくら主さんと呼んだとて  
一生添えない片想い

（男女）

奥山住まいのウグイスは  
梅の小枝で昼寝して  
春が来るような夢をみて  
ホケキヨホケキヨと  
鳴いていた